

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	予防接種事業						担当部	健康福祉部							
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系		担当課	保健センター							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	予防係							
	総合計画 分野別計画	主目的	3 保健福祉		10 健康づくり		4 健康づくりのための環境を整備する									
		副目的														
	予算区分	款	4		項	1		目	2		大	2		中	1	
	根拠法令・個別計画	予防接種法														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	予防接種を実施することで、市民が感染症へ感染することを予防する。														
	内容 (手段)	<p>◆平成24年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種は、各市民センター等で実施する集団接種(ポリオ・BCG)と医療機関で実施する個別接種(麻しん風しん混合、三種・二種混合、日本脳炎)があるが、全ての予防接種対象者に個別に通知した。また、安全な予防接種を実施するため、個人の接種を管理するとともに、広報、ホームページで周知した。 ・インフルエンザの予防接種の費用の補助を実施した。 ・子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種を実施した。 ・職員は、予防接種の実施及び予診票の発送、点検、委託料の支払事務を行った。 <p>◆24年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 賃金等(523千円) 予防接種協議会等委員謝礼(15千円) 消耗品・通信運搬費・備品等(5,733千円) 予防接種等委託料(398,234千円) 予防接種等補助金(30,230千円) ・その他財源の内容:インフルエンザ予防接種接種料(14,541千円) <p>○平成25年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団接種、個別接種については、平成25年度より定期予防接種となったヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防の各ワクチンを個別接種に加え実施する。 ・インフルエンザの予防接種の費用の補助については、平成24年度と同様に実施する。 <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 賃金等(782千円) 予防接種協議会等委員謝礼(99千円) 予防接種等委託料(399,133千円) 予防接種等補助金(59,803千円) 														
	受益者負担	有		インフルエンザ予防接種接種料:1人当たり1,000円												

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	276,003	426,793	434,735	459,817	
		正職員	従事者数	人	0.90	0.90	0.90	0.90
			人件費	千円	4,797	4,797	4,797	4,797
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	280,800	431,590	439,532	464,614
	対前年比		%		153.7	101.8	105.7	
財源	一般財源	千円	242,853	347,829	361,845	449,214		
	国・県支出金	千円	23,662	69,786	63,146	0		
	その他財源	千円	14,285	13,975	14,541	15,400		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	麻しん風しん混合実施医療機関	箇所	目標	55	55	57
実績				55	55	57	
三種混合実施医療機関		箇所	目標	55	55	57	57
			実績	55	55	57	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	麻しん風しん混合	人	目標	—	—	—	—
実績			5,351	5,472	5,610		
三種混合	人	目標	—	—	—	—	
		実績	1,410	1,220	1,523		

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	集団接種、個別接種を実施することで、市民が感染症へ感染することを予防した。				
		事業実施における課題	子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種(任意)が実施された結果、乳幼児期の予防接種が過密になり、事故等の発生の恐れがある。また、集団接種で実施していたポリオ(生ワクチン)の予防接種が予防接種の改正で不活化ワクチン(個別接種)へ変更がされた。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	小児マヒ、麻しん、風しん、日本脳炎等への感染者が増加し、入院患者、死亡者が増加する。				
	改善内容	平成25年度の	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンが任意から定期接種への変更等に対応しつつ、引き続き、集団接種、個別接種を実施し、市民が感染症へ感染することを予防する。			
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの			
	判定理由	予防接種の変更等に適切に対応しつつ、引き続き、集団接種、個別接種を実施し、市民が感染症へ感染することを予防しながら、高齢者の増加に対応して助成対象者を拡大する必要があると考えられるため。					
	26年度以降の改善案	乳幼児期の予防接種が過密になり、事故等の発生の恐れがあるので、引き続き実施医療機関への注意喚起を促すとともに、予防接種の変更等に適切に対応していくこととする。なお、高齢者の増加に対応して助成対象者の拡大を検討する。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	拡大	一次評価のとおり。